

## 弘法の井戸

匠探訪  
174

「千葉真宗教法人名簿」に記載された市内77カ寺のうち、約半数が真言宗寺院です。

真言宗は空海・弘法大師が9世紀(平安時代)初めに開いた宗派です。

市内には弘法大師の時代に開かれたと伝わる寺院もあります。歴史的には1338年から1428年頃に真言宗が広まったとされています。

豊和地区大寺・龍尾寺は709年に開かれたと1655(明暦元)年の縁起に残されています。

つまり都が奈良・平城京に移る前年の創建で、1300年余りの歴史があるというわけです。もとの寺跡は現在地とは別の場所で、そこから見つかった古代瓦は700年代のものと考え、「八日市場大寺廃寺」という遺跡名で呼ばれています。

す。

空海に関する伝説は全国各地にあり、『空海の軌跡』や『空海伝説の形成と高野山』などによると、「東国やその周辺への巡歴は史実として示す資料が発見されていない」、あるいは「820年に真言宗を広めるため弟子と現在の栃木県などを巡った」ともあります。しかし、龍尾寺の伝説と約20年の開きがあるのが惜しまれます。

龍尾寺には、寺の名前に結び付く伝説があります。731年、日照りが続き農民が龍に雨乞いをすると、大きな龍の許しを得ずに小さな龍が雨を降らせたため、怒りを買ってしまいました。その龍尾寺に納め、寺の名を龍尾寺としたと伝わります。

市内はもとより地域で最古の寺は、由緒にふさわしい雰囲気漂います。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

関秘書課広報広聴班

☎73・0080



龍尾寺境内にある弘法の井戸

龍尾寺境内薬師堂の左後方に弘法大師手掘りの井戸があり、案内板に「807(大同2)年、空海が東国各地を巡って修行していた時この地に7日間とどまり祈りを続け井戸を掘り当てた」と書か